第２回　伊勢崎市部活動地域移行検討委員会　議事録

期　日　令和５年２月９日（火）１０：００～１１：３０
会　場　伊勢崎市役所　東館５階第３会議室
出席者　菅谷美沙都委員、武井義夫委員、平林知巳委員、堀田享委員、小林秀規委員
　　狩野浩之委員、矢島貢委員、結城啓之委員、下山祐樹委員

１　開会
２　あいさつ（教育部長）
・部活動地域移行が目指す方向は、持続可能な部活動として、子供たちが活動を楽しみ、自分を表現できる場を整備していくことが大切だと考えている。
・令和５年度以降の実現可能な休日の部活動地域移行の在り方について、それぞれの立場から忌憚のないご意見を頂き、生徒や保護者、教職員、地域関係者の皆様にとっての最善の利益となることを目指し、伊勢崎市の部活動について検討していきたい。
３　部活動地域移行について　（事務局）
４　協議（各委員より）
・中学校単体で部活動を地域移行する場合は、参加できるのはその学校の生徒だけなのか。
→中学校に地域人材やスポーツ協会の指導者等を学校に派遣していただくことを想定しているが、検討委員会でご意見をいただき検討していく。
・教員が関わる場合の服務の管理について。現状どおりか、兼業兼職まで踏み込むのか。
→県の働き方改革の指針等の情報を集めるとともに、検討委員会で意見をいただき検討していく。
・部活動指導員の予算措置はどうなるか。
→令和５年度は拡充の方向で考えている。
・最終的には、部活動に教職員は関わらない方向で考えているのか。東京都では、週４日程度の予算をつけて、指導者を募集しているようだ。
→今後、財源を確保することが必要であると考えている。子供たちが活躍できる、自己表現できる場を整備していくにあたり、どのような形がよいか、できるところからやってみて、課題を洗い出し、より良い形にしていきたい。
・活動の場として、市内を四等分し、育成を目的に活動していく。競技力の強化については、各競技団体に依頼し受け皿の整備お願いする。子供たちを部活動から地域クラブへどのように移行させるかが課題である。
・クラブで活動したい子供は増えている。環境も整備されつつある。大半の子供たちは中学から部活動に参加しようとしているが、受け皿があれば、子供たちは自分の意志で選択することができる。
・大半の子供たちは部活動で満足している。一部の子供が、自分の活動する目的に応じて、クラブや団体での活動を望んでいる。
・本校のソフトテニス部は、部活動と地域クラブで活動している。バスケットボールも同じで、部

活動と地域クラブが共存している。
・部活動があるから、学校生活（学習面や人間関係）がプラスになっている。ただ、教員の働き方改革からすると厳しい。国の予算措置も、要求額から大幅に削減されている現状から、国がどれくらい力を入れたいのかということに疑問を持っている。
・部活動地域移行の理想は、組織や環境を整備し、地域で子供を育てていくという考えである
・様々な課題や負担はあるが、地域全体で協働しながら進めていくことが大切である。
・急激な変化は厳しい。
・部活動がすぐになくなることはない。
・子供の数は減っている。伊勢崎市はそうでもないが、山間部は特に厳しい。部活動も厳しい。すべての地域というのは難しい状況である。段階を追ってできるところからということで、事務局も案を示してくれたと思う。
・本校は運動部が５つ設置されていて、バスケットボールをやりたいけど、部活動がないために、仕方なくバレーボールをやっている。そのような子供たちをどうしていくか。そういった子供たちを地域で受け入れてもらうことが望ましい。
・部活動は仲間とのつながりや人間形成の面で大変意義がある。
・令和５年度からの３年間で、今できることをみんなで考えを出し合いながら、実現可能なものを探っていく。部活動地域移行の課題や方向性を見える化していく。（委員）
・地域クラブの指導者は、学校との接点が少ないため、現状を把握できていない。反対に、学校の教職員も地域クラブの状況や指導理念等を把握できていない。
地域クラブの状況や受け入れ体制等が分かる「クラブマップ」のようなものがあると、先生方も生徒や保護者に紹介できるのではないか。
・地域クラブとして、学校と連携し、子供に寄り添った活動をしていきたいと考えている（委員）
・市内中学校の全部活動を地域に移行するというのは難しい。
・部活動の延長から地域の活動に順次緩やかに移行していくことが良いと考える。
・地域クラブは、実力優秀者に対し奨学金制度を導入し、レベルの高い活動を目指す子供を受け入れることも方法の一つであると考える。みんなにチャンスを与えられるような仕組みにしていくのが良いのではないか。
・中学校での部活動はしばらくなくさないのが良い。（セーフティーネットとして）
・部活動数を減らしていくことが必要。部の数に対して、教職員の数が少ない。学校もスリム化していく必要がある。
・学校の施設を活用する・借りるとなると、顧問の先生がいないと様々なトラブルになる可能性がある。
・市スポーツ協会傘下の２２団体がジュニア指導しており、情報も発信している。
・境地区の中学校では、やりたくてもやりたい部がない現状がある。
・地域スポーツクラブとして、境地区の３校が合同での活動を行えば活動できる。教員だけではなく、地域の方に協力を願いながら指導に当たる。活動には中学生だけではなく、小学生や高校生も参加できるようにする。
・団体種目は、平日との指導の一貫性に課題はある。

・個人種目の指導に当たっては、地域で専門性の高い方がいればありがたい。
・柔道は、学校から要望があればいつでも地域での活動が可能である。
・本校の卓球部は、夜、社会体育として活動している。そこには小学生や高校生も参加している。夜間の貸し出しは公民館が行っている。公民館との連携は強みになり、地域の特性を生かすことになる。
・柔道はそれぞれの地域に教室はあるので、受け皿は十分にある。
・社会体育として、地域の中で核となって活動している人はいる。そういう人をうまく活用していく。
・地域には、スポーツ鬼ごっこやバレーボールのスポーツチャレンジ教室など、様々な活動がある。
・日頃の活動を発表できる場、大会参加について整備が必要である。
・学校を含めて地域で子供を育てる。
・市として、見える化をしていく。
・３年間で少しずつ増やしていくという考えが理想的だ。
・解決しなければならないハードルは多いが、各地区でできることを増やしていければと考える。
・宮郷地区の卓球、あずま地区のバスケットボールなど、以前から地域移行につながる活動があったことが理解できた。今後も地域の活動を共有していければと思った。
・部活動の数を減らしていかなければならない。
・子供たちが活動できる場、活躍できる場、居場所を確保していかなければならない。
・クラブマップのような情報があるとありがたい。
・受け皿については、生徒の目標に応じていろいろなレベルのものがあると良い。
・保護者として、活動できる場所や団体などの情報があるとありがたい。
・これまでは学校にある部活動からしか選べなかったが、選択肢が広がる。
・けがをした時の責任の問題、進路関係等、学校との連携は必要である。
・大会の仕組みがどうなるか、部活動が残るか分かれ道になる。
・クラブの大会参加については、近々示される予定である。

（事務局）

・クラブ移行ではなく、地域移行。子供たちを地域で育てていく。子供たちの活動の選択を広げる。
・子供ファーストで意見をいただいて大変ありがたい。
・部活動指導員については拡充の方向で考えている。
・子供たちが自分で決定し、責任をもって選択していくことも大切。
・検討委員会で話し合われたことを学校、保護者、地域に発信してもらいたい。

５　諸連絡

・令和５年度も年３回検討委員会を実施予定。改めてお願いする。

６　閉会